

国立新美術館国際展 | ジャポニスム 2018 公式企画

MANGA ↔ TOKYO

まもなく開催！ 展示内容詳細のお知らせ



イラストレーション：吉成曜
©Crypton Future Media, INC. www.papro.net / ©カラー / ©武内直子・P.N.P. 東映アニメーション / ©創通・サンライズ / ©集英社 / ©秋本治・アトリエじーだま / 集英社 / ©TOHO CO., LTD.


2018年11月29日（木）～12月30日（日） フランス・パリでの開催



国立新美術館国際展 ジャポニスム 2018 公式企画

MANGA⇔TOKYO

国立新美術館と国際交流基金は、本年 11 月 29 日（木）「MANGA⇔TOKYO」展をパリのラ・ヴィレットにて開催します。本展は、2015 年に国立新美術館で開催した「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」第 2 弾となる展覧会であり、また 2018 年 7 月よりパリを中心にフランスで開催中の日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」の公式企画のひとつとして、文化庁、一般社団法人マンガ・アニメ展示促進機構、ラ・ヴィレットとの共催により開催するものです。このたび展覧会の詳細が決定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

- 【展覧会名】** MANGA⇔TOKYO
- 【展示主旨】** 都市〈東京〉を映し出してきた日本のマンガ・アニメ・ゲーム・特撮作品と、それらフィクションを注入された現実の〈東京〉の、複合的体験を提供する企画展示。
- 日本のマンガ・アニメ・ゲーム・特撮作品は、都市〈東京〉の特徴や変化を、鏡のように映し出してきました。本展は、そのさまざまな描写を、多数の原画や模型、映像などでたどりま。現実の都市の特徴がいかにフィクションを生起し、方向付けてきたのか。またそれらフィクションやそのキャラクターが、現実の都市にいかなるイメージを重層的に付与し、作用をおよぼしてきたのか。本展は、日本のマンガ・アニメ・ゲーム・特撮の展示であると同時に、そこに映し出され、さらには人々の記憶の中で重合された、〈東京〉を展示します。「聖地巡礼」など、アニメやゲームが観光資源として注目される中、その意味や可能性に光を当てます。
- 【主催】** 国際交流基金、国立新美術館、文化庁、一般社団法人マンガ・アニメ展示促進機構、ラ・ヴィレット
- 【会期】** 2018年 11月 29日（木）～12月 30日（日）（32日間）
＊プレス内覧会：11月 28日（水）9:45～16:00
- 【会場】** ラ・ヴィレット（フランス・パリ）グランドホール
住所 211 Avenue Jean-Jaures 75953 Paris France
＊ラ・ヴィレットとは、パリ 19 区にあるラ・ヴィレット公園内にある複合文化施設で、展示や音楽・舞台公演等ができる。
- 【開館時間】** 日、月～木 10:00～19:00 金・土 10:00～20:00（会期中無休）
- 【入場料】** 15ユーロ（一般）
- 【協力】** 日本航空株式会社  JAPAN AIRLINES
- 【企画】** 国立新美術館
- 【キュレーター】** 森川 嘉一郎（もりかわ かいちろう）明治大学 准教授
- 【アシスタントキュレーター】** 50 音順
今泉 真緒（いまいずみ まお）株式会社グズ代表取締役
真住 貴子（ますみ たかこ）国立新美術館 教育普及室長
宮本 亮平（みやもと りょうへい）国立新美術館 客員研究員
森田 菜絵（もりた なえ）国立新美術館 客員研究員
吉村 麗（よしむら れい）国立新美術館 客員研究員
- 【主な展示物】** 1/1000 巨大東京都市模型、約 90 タイトルの日本のマンガ、アニメ、ゲーム、特撮の直筆原稿、セル画、撮影用プロップ、映像、特撮模型、フィギュア、浮世絵などの歴史資料、電車やコンビニなどキャラクターで彩られた東京の都市空間の再現インスタレーション
- 【展示内容】** 出品コンテンツは別添参照

■プロローグ

《ミュージアム・ショップ：リトル秋葉原・リトル乙女ロード》

さらに、秋葉原と池袋の乙女ロードが現れます。マンガ、アニメ、ゲーム、特撮の関連グッズなどを扱う店舗を再現展示するとともに、実際にそこで商品を買うことができます。ファンが男女でそれぞれ独特の趣味嗜好を追究し、それぞれ専門店街が秋葉原と池袋に分かれた形で形成されたことも、日本のマンガ、アニメ、ゲーム、特撮と東京という都市との関係の特徴付けています。

《1/1000 巨大東京都市模型》

ミュージアム・ショップを抜けると、そこに 1/1000 の縮尺で再現された、幅約 17 メートル、長さ約 22 メートルの巨大な東京の都市模型が現れます。そしてこの巨大な都市模型を囲み、見下ろす回廊に沿って、東京を舞台とするマンガ、アニメ、ゲーム、特撮作品の展示が展開されます。現実の都市風景に、さまざまな物語の場面やキャラクターの記憶が重ねられて醸成される、〈東京〉の複合的なリアリティを来場者が感得できる構造となっています。

■ギャラリー 1

《破壊と復興の反復》

日本では、東京の大規模な破壊や、そこから復興してできた新しい都市風景を描いた作品が、繰り返し作られてきました。東京は、現実において、地震や火災、戦災などによる大規模な被災と、そこからの復興を繰り返してきた都市です。その歴史や記憶が、日本人々にとって、このような作品を受容する際の、リアリティの感覚を形成しています。つまり、現実の都市とその歴史が、フィクションの重要な基盤となっているわけです。作中で破壊をもたらす存在が、しばしば人智を越えた神のごとき存在として描かれることも、特徴的です。

©2018 OPMA All Rights Reserved.



■ギャラリー 2a

《東京の日常》

プレ東京としての江戸

都市的な破壊と復興という、非日常の間には、市井の人々の日常生活が息吹きます。これより時代ごとに三つのセクションに区切り、日常生活を描写した作品群を通して、人々の生活の場としての東京と、その変遷を見てゆきます。

©2018 OPMA All Rights Reserved.



■ギャラリー 2 b

《東京の日常》

近代化の幕開けからポストモダン都市、そして現在まで

日本は19世紀後半からの急激な近代化、そして第二次世界大戦での敗戦を経て、20世紀後半にはめざましい経済発展を遂げます。この間、東京の都市としての姿も、そこで人々が営む日常生活も、めまぐるしく変化することになりました。都市部の発展それ自体は、世界各地で見受けられた現象である一方、日本ではそのような都市やその生活者の変化の過程が、日本のマンガやアニメやゲーム、特撮の中で、とりわけ20世紀後半以降、多角的かつ多様に映し出されてきました。

©2018 OPMA All Rights Reserved.



■ギャラリー 2 c

《東京の日常》

現在

20世紀末以降、日本は経済的な低迷期に入りました。作品の世界でも、東京を華やかなメトロポリスとして演出するよりも、スーパーからの家路といった微視的な風景を切り取り、生活の機微を祝福したり、そこに差す影を見つめたりするような表現が目立つようになりました。そして首都の中心性に代わって、その中の個々の街区の個性やストリートカルチャーが、物語の舞台装置として、顕在化するようになりました。ここで紹介される作品には、東京の生活の「今」が、克明に描き出されています。

©2018 OPMA All Rights Reserved.



■ギャラリー 3

《キャラクターvs.都市》

この展示ではさまざまなマンガ・アニメ・ゲーム・特撮作品の中に投射された東京を紹介する一方、最後のセクションでは、逆に、現実の都市空間に召喚されたり、作用をおよぼしたりするキャラクターたちに目を転じます。街に現れたキャラクターたちは、その知名度やアイキャッチングな魅力によって、さまざまな商品やサービスの販売促進をはじめ、企業や公共機関、自治体などのマスコットやアバターを務めています。さらに、特定の場所と関連付けられることにより、観光資源として力を発揮する事例も現れています。

©2018 OPMA All Rights Reserved.



■ 絵馬体験風メッセージコーナー

展覧会の最後に、参加者が絵馬型のカードヘイラストやメッセージを残せるコーナーを設けています。

■ イベント情報

トーク・イベント 1

12月9日(日) 15:00~16:30(予定)

会場： ラ・ヴィレット地下 1 階講堂 ポリス・ヴィアン

ゲスト： 吉成曜（アニメ監督、イラストレーター）、
コヤマシゲト（デザイナー、アート・ディレクター）、
草野剛（グラフィックデザイナー）

トーク・イベント 2

12月23日(日)15:00~16:30(予定)

会場： ラ・ヴィレット地下 1 階講堂 ポリス・ヴィアン

ゲスト： 桜沢エリカ（マンガ家）

■ MANGA⇄TOKYO 展 オリジナルキャラクター

「ヨリコ」と「ヴィッピー」について

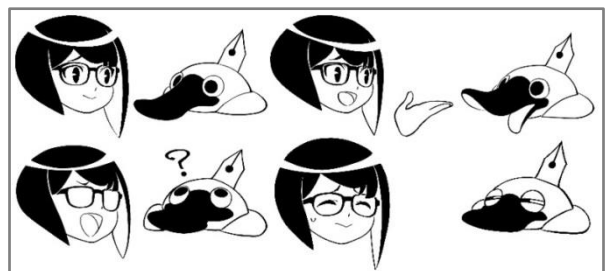
地球外からのVIP来訪者と、その案内係を担当することになった本展覧会スタッフという設定で、「ヴィッピー」と「ヨリコ」というオリジナルのマスコットキャラクターを作りました。

ヴィッピーは、一説には「漫画」の語源に関連するとされるヘラサギという鳥を模しています。ヨリコは、展覧会のポスターやキービジュアルで、様々なキャラクターにコスプレをして代理役を務めます。展示会場内では、セクションごとのテーマを説明するイラストやトリビア解説に登場し、コミュニケーターの役割を担います。

キャラクターデザインとイラストはアニメ『リトルウィッチアカデミア』で監督を務めた吉成曜（よしなりよう）さん。キャラクターの設定やデザインには、キュレーターの森川嘉一郎さん、デザイナー、アート・ディレクターのコヤマシゲトさん、グラフィックデザイナーの草野剛（くさのつよし）さんにも協力していただきました。また、セクションごとのテーマを説明するコンセプトイラストは、芳垣祐介（よしがきゆうすけ）さんにお願しました。



©2018 OPMA All Rights Reserved.



©2018 OPMA All Rights Reserved.

■ MANGA⇄TOKYO コンセプトブック

本展覧会キュレーターの森川嘉一郎による展示テーマのテキストと、吉成曜、コヤマシゲト、草野剛、森川による座談会形式でヨリコ・ヴィッピーというキャラクターの誕生秘話を収録したコンセプトブック。

限定 3000 部、パリの会場でのみの販売となり、国内販売はございません。

ヴィッピーを案内するヨリコのアクリルフィギュア付き

サイズ：A5版 64 ページ、 言語：英仏バイリンガル、 定価：15 ユーロ

「ジャポニスム 2018 : 響きあう魂」とは

日仏友好 160 年にあたる 2018 年、両国政府間の合意に基づき、芸術の都フランス・パリを中心に、大規模な日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018 : 響きあう魂」を開催中。パリ内外の 100 近くの会場を舞台に、約 8 か月間に亘り、美術展、舞台公演、映画、その他食や工芸など日本人の日常生活により密着した文化まで含め、さまざまな日本の芸術と文化を、古典から現代まで幅広く紹介しています。会期を通じ、約 70 の公式企画を実施。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を前に、日本文化の多様な魅力をパリに、またパリを通して世界に向けて伝えようとするものです。



会期： 2018 年 7 月～2019 年 2 月

事務局： 独立行政法人国際交流基金

【展覧会ウェブサイト】

ラ・ヴィレット（会場） <https://lavillette.com/evenement/manga-tokyo/>（フランス語）

国立新美術館 http://www.nact.jp/exhibition_special/2018/MANGA-TOKYO/

ジャポニスム 2018 <https://japonismes.org/>

【担当・連絡先】

・展覧会の内容にかかわること

国立新美術館 学芸課 MANGA⇔TOKYO 担当

Email : manga@nact.jp

・報道関係のお問い合わせ（広報用画像の貸し出しについて等）

国立新美術館 広報・国際室

住所： 〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2

TEL : 03-6812-9925（平日 10 : 00-17 : 00）FAX: 03-3405-2532

Email : pr@nact.jp

・ジャポニスム 2018 に関するお問い合わせ

独立行政法人国際交流基金ジャポニスム事務局 / ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当： 浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所： 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL : 03-6894-3201 FAX : 03-5413-3050

Email : japonismes2018@ssu.co.jp

【添付資料】

・出品コンテンツ一覧

・広報用画像申請書、取り扱い諸注意